



学校だより

9月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/ryokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

この地域の自然を感じて ～多様なセミの声から～

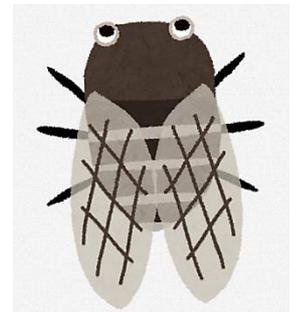
副教務主任 鈴木 浩男

夏休みが終わり、今日から緑園東小に子どもたちの元気な声に戻ってきました。不思議なもので、人の気配がないとどこか無機質でつるつとした校舎も、うれしそうにわくわくしている感じがします。昨年度に引き続き様々な制限がある夏でしたが、一人ひとりがそれぞれに楽しいことやおもしろいことを見つけられたと思います。それは、「夏休み研究作品展」の中に見ることができるでしょう。子どもたちがもつ好奇心のすばらしさと、支援して下さった保護者の皆様に感謝申し上げます。

さて、私がこの緑園東小に4月から異動してきて5か月余りがたちました。毎日の「おはようございます。」という子どもたちの明るく大きな声が元気の源となって過ごすことができます。また、周囲の自然の豊かさにも心が落ち着かされます（少し足を延ばすと大池公園に行けるなんて!）。

夏休み前のことですが、朝早くからセミの声がにぎやかに聞こえ、その中に久しぶりにニイニイゼミの声もありました。クラスの子どもたちにその話をすると、さっそくニイニイゼミの抜け殻をいくつか持ってきてくれました。泥がついている小ぶりの抜け殻を手にとってみると、自分が子どもころに毎日夢中になってセミ取りをしていたことを久しぶりに思い出しました。

もう一つ、セミの声で驚かされることがあります。それは、「シャーシャーシャー」と鳴くクマゼミが多いことです。昔、おおよそ箱根の山を境に、東側はミンミンゼミ、西側はクマゼミが分布していると、どこかで聞かされた覚えがあります。確かに静岡辺りに行くと、もうクマゼミの声ばかりでしたし、東京や横浜の夏はアブラゼミ以外は「ミンミン」という声がほとんどでした。ところが、学校周辺から聞こえるセミの声は、クマゼミとミンミンゼミが混じり合ってどちらも主張しているかの如くにぎやかです。なぜ、以前と比べてクマゼミが増えてきたのでしょうか。西の方に多く生息しているクマゼミが関東地方に増えてきたのは、もしかして地球温暖化に関係があるのかも…などと考えながら調べてみました。すると、そのわけが分かってきました。まず、セミは長い距離を飛ぶことができないので、暑い西のほうから飛来してきたわけではないこと。公園整備に伴い、クスノキなどの南方系の常緑樹が植樹された際に、枝に産みつけられた卵や、根元の土の中にいた幼虫と一緒に運ばれてきたことが原因なのではないか、ということでした（横浜市緑の協会発行「よこはまこども植物園だより No. 143号」より引用）。この土地に根付いて、毎年土の中から羽化していると思うとクマゼミの生命力の強さに驚かされます。その一方で、いわゆる外来種の生物が入り込んで繁殖するケースの一つとして覚えておく必要があるな、と思いました。（実際、大型船が貨物などを降ろした後、バランスをとるために積み込む海水に小さな生物や海藻が入り込んで運ばれている問題があるそうです。）



このように、当たり前のようにいる身近な生き物も、少し立ち止まって考えてみるといろいろなことが分かってくるものです。これからも、子どもたちとともに身近な問題に目を向けられるようにしていきたいと思えます。

9月13日まで分散登校となり、給食室工事も始まります。子供たちと保護者の皆様および地域の皆様には何かとご不便、ご負担をかけますが、引き続き細心の注意を払い、安心・安全な学校生活が過ごせるように取り組んでいきます。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。